

令和元年度現地日系ネットワーク形成支援事業レセプション

山田大使挨拶

皆さん、こんばんは。本日は日本大使公邸にお越し頂きありがとうございます。

私は外務省入省以来、長い間ブラジルをはじめとする中南米諸国との外交に携わってきました。そして、中南米の日系社会との関係強化は私にとって最も大切なアジェンダの一つでした。駐ブラジル大使としてブラジル各地に足を運び、様々な世代の多くの日系人と交流してきました。

本日お集まりの皆さんは、ブラジルと日本の架け橋として今後一層の活躍が期待される世代です。そんな皆さん同士が交流を深め、ネットワーキングの場として本日の会を楽しんで頂ければ幸いです。今日はキン・カタギリ連邦下院議員にもお越しいただきました。議員のお話も楽しみにしたいと思います。

さて、私からは、皆さんに「日伯関係の現在と今後」について少しお話しします。

皆さんは本年、安倍総理とボルソナーロ大統領は何回会談を行ったかご存じでしょうか。1月の「ダボス会議」の機会、6月の「G20大阪サミット」の機会、そして10月の「即位の礼」の機会の、計3回です。近年これほど両国首脳が会った例はなく、両首脳間の個人的なケミストリーは大変良いものがあります。こうした緊密な首脳間の交流を背景に、日ブラジル関係の強化に向けたモメンタムは高まっています。もう少し具体的にいくつかの点について話しましょう。

最初に、経済関係です。

2015、2016年、ブラジルの政治・経済危機の時代から、近年日伯の貿易・投資は減少傾向にありました。現政権は、年金制度改革を実現し、さらに各種構造改革に取り組んでいます。また、メルコスールとEU及びEFTAとのFTAが実質合意するなど、自由で開かれた経済・貿易政策を志向しています。ブラジル経済の回復と構造改革の進展に伴い、日本企業のブラジルへの関心も戻りつつあります。我々は、日・メルコスールの経済連携の深化とともに日伯の経済関係の強化に努めていきます。

次に、開発課題についての協働です。

これまで日本は、ブラジルにおいて、ウジミナス、セニブラ、セラード開発、カラジャス、アマゾン・アルミ等のナショナルプロジェクトの実施や環境、防災、治安、インフラ等、多岐にわたる協力に取り組んできました。最近では例えば、衛星画像を活用して、アマゾンの森林の伐採状況の監理に役立てるプロジェクトを、JICAを通じて支援してきています。今後も、こうしたアマゾンの持続可能な開発への取組や、保健や教育等の各分野の課題への対応において、ブラジルとさらに協力していきたいと考えています。また、科学技術分野における協力は大きな可能性を持っており、来年は大きな進展を期待しています。

第3に、グローバルな課題への対応での協力です。

日本とブラジルは、自由と民主主義、人権の尊重、法の支配といった基本的価値を共有しており、両国の国際場裏での協力は、より大きな責任と価値を帯びるようになってきています。例えば、国連安保理改革、WTOでの協力、さらには、気候変動や海洋プラスチックごみ等の地球環境問題に両国で一層連携して取り組んでいきたいと考えています。日本とブラジルはグローバル・パートナーであることを強調したいと思います。

最後に、人的交流、文化交流の推進です。

2020年は東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。「リオから東京へ」をスローガンに、各種スポーツでの両国の交流を一層推進する契機としたいと考えます。ブラジリアでも、オリンピック・パラリンピックに関するイベントの開催を検討しています。また、柔道の学校カリキュラム導入に向けた支援の取組を進めています。スポーツ交流を様々な種目で広げていきたいと思っています。

アカデミックな交流も、来年はもっと盛んになります。7～8月には両国の学者が進めている、日伯共同研究の報告会をブラジリアで行う予定です。留学生の増に向けた取組もさらに強化します。

伝統文化から日本のポップカルチャーに至るまで、文化関係のイベントや対日観光促進や日本食の普及に向けた行事も検討しているので、適当な時期に皆さんにお知らせすることができるでしょう。

もちろん、日系社会との連携強化については様々なアイデアを出して、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。

駐伯日本大使としての大きな仕事は、日本とブラジルの間の、あらゆる分野の人たちの双方向の交流の促進です。今日お越しいただいた皆さんに、私たちとともに日本とブラジルの間の双方向の交流の旗振り役になっていただけるのであれば幸いです。ご清聴ありがとうございました。

(了)